

関係各位

京都府病虫害防除所長  
( 公 印 省 略 )

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

◇  
発生予察特殊報第 1 号

病 害 虫 名 ヒサカキワタフキコナジラミ *Pealius euryae* (Takahashi)  
対 象 作 物 名 チャ  
発 生 地 域 山城地域、中丹地域

1 発生経過

令和2年2月に、宇治市の茶園において、茶株内の低い位置の枝の葉裏に白い綿状物質に覆われた種不明なコナジラミ類幼虫の発生が確認された。神戸植物防疫所に同定依頼したところ、本幼虫は本府未発生のヒサカキワタフキコナジラミと同定された。

その後、3月にも和束町及び福知山市の茶園で本種幼虫の発生を確認した。

2 国内における発生状況

チャでの発生は、平成27年10月に埼玉県で初めて確認され、平成29年7月に静岡県、平成29年10月に愛知県、平成30年10月に三重県においても確認が報告された。

3 本種の形態及び生態的特徴

- (1) 成虫の体長は約1.0mm、体色は白色である(写真1)。幼虫は小判状で淡黄色をしており、周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ(写真2、3)。
- (2) 終齢幼虫の体長は成虫とほぼ同じである。成虫は新芽や新葉に集合して吸汁加害するほか、大量の卵を新葉の葉裏に産卵する。また、幼虫は葉裏に生息して吸汁加害するとともに、白い綿状の分泌物を出し、葉裏全体を覆うようになる(写真4、5)。
- (3) 本種は、成虫、幼虫ともに直射日光が当たらない新芽及び新葉の葉裏に好んで寄生する。また、幼虫の吸汁被害と、分泌される甘露によって下位葉に灰色のすす病が発生する。ただし、チャ生産における被害は現在のところ報告されていない。

4 防除対策

- (1) 本種のチャ生産における被害は報告されておらず、現在のところ本種を対象とした防除対策の必要性は少ないと考えられる。しかし、チャにおける発生生態に関しては十分な知見がないため、ほ場での発生状況には十分注意する。
- (2) 覆い下栽培などの遮光を伴う栽培では、直射日光が当たらず、本種の好適環境となるため、特に注意して観察する。
- (3) 令和2年3月23日現在、チャにおいて本種に適用のある農薬はない。
- (4) 本種の発生が見られた場合は、最寄りの農業改良普及センター、茶業研究所または病虫害防除所に相談する。



写真1 羽化した成虫



写真2 若齢幼虫



写真3 幼虫（越冬世代）の拡大画像  
（白い綿状物質を分泌している）



写真4 葉裏に寄生する幼虫（越冬世代）



写真5 多数の幼虫が寄生する葉裏